

第5回 雑司が谷・歴史と文化のまちづくり懇談会 会議録

会議体名	雑司が谷・歴史と文化のまちづくり懇談会	
主管課	政策経営部政策調整担当副参事	
開催日時	平成21年11月26日(水) 午後7時30分～午後9時00分	
開催場所	区民ひろば南池袋	
出席者	地域からの委員 (名簿順・敬称略)	雑司が谷三丁目町会会長市川氏、雑司が谷一丁目町会会長戸張氏、柳下会会長石塚氏、雑司が谷二丁目町会会長清田氏、鬼子母神通り商店睦会会長建持氏、郷土史研究家矢島氏、豊島区の歴史と文化の研究「としま塾」代表委員伊藤氏、雑司が谷郷土玩具伝承会小池氏、お会式連合会長武田氏、お会式連合相談役堀口氏、観静院住職高桑氏、並木ハウスオーナー砂金氏、南池袋地区まちづくりの会会長廣瀬氏、環状5の1号線沿道まちづくり協議会会長椎名氏、東京アーバンクリエイト21佐藤氏、東京音楽大学事務局長原山氏
	区の出席者 (事務局)	横田政策経営部長、東澤文化商工部長、矢作学習スポーツ課長 (事務局) 政策調整担当副参事 齊藤
	コンサルタント	アネトス地域計画 上門、西、江口
傍聴	前半スピーチのみ	人
会議次第	<p>○開 会</p> <ol style="list-style-type: none"> 雑司が谷スピーチ⑤ 伊藤榮洪 氏 まちの回遊性向上について ボランティアガイド(台東区視察結果)について 「としまコミュニティ大学」ワークショップからの提案について 平成22年度のアクションプランについて <p>○閉 会</p>	
会議経過	<p>《開 会》</p> <p>伊藤氏</p> <ol style="list-style-type: none"> 雑司が谷スピーチ⑤ 伊藤榮洪 氏 伊藤氏から雑司が谷の歴史、風俗、雑司が谷に関わる文人や著名人の足跡等についての講演(約40分) (※「雑司が谷スピーチ」は、まちづくりを考える一環として、学識者等から雑司が谷にまつわるミニ講演をいただくもので、今回は5回目です。) <p>コンサルタント</p> <ol style="list-style-type: none"> 〈資料5-1〉回遊ルートづくりに向けた案内サイン設置イメージの提案について説明 <p>《資料説明》 雑司が谷回遊ルートづくりに向けたサインイメージの検討のため、サインの現況と</p>	

齊藤副参事	<p>課題、サイン設置の基本的な考え方、サインのデザインイメージについて説明。</p> <p>3. 〈資料5-2〉ボランティアガイドの先進事例として台東区のボランティアガイド制度について説明</p> <p>《資料説明》</p> <p>台東区で実施しているボランティアガイドの運営体制、利用状況、ボランティアガイドの養成方法について説明。</p>
学習・スポーツ課長	<p>4. 〈資料5-3〉「としまコミュニティ大学」ワークショップの進行状況等についての説明</p> <p>《資料説明》</p> <p>としまコミュニティ大学ワークショップ「発見！雑司が谷の魅力」での雑司が谷のまち歩きについて参加者からの発表。</p>
齊藤副参事	<p>5. 〈資料5-4〉平成22年度の主なアクションプランについての説明</p> <p>情報ステーションの設置等アクションプランに基づく具体的な歴史と文化のまちづくりの展開について説明。</p> <p>《質 疑》</p>
委員	<p>雑司が谷には竹本焼（陶器）という固有の伝統工芸があり、今でも残っている。その展示スペースを情報ステーションのどこかに確保できないか。</p>
委員	<p>ゲートサインやルートサインについて、雑司が谷に訪れた人が利用するだけでなく、それを目的に来るように、並木ハウスであれば手塚治虫のキャラクターを掲示板の横に並べたり、情報ステーションを街角ギャラリーのようにして、訪れた人が写真を撮れるようにすると良いのではないか。</p>
齊藤副参事	<p>前回の懇談会で、「十月桜」を植えてはどうかという意見をいただいた。現在、公園緑地課で土壌を調査しており、2月頃に植えるのがよいということで、検討を進めている。</p>
委員	<p>鬼子母神の入口にあるみみずく公園にも十月桜を植えていただきたい。</p>
区長	<p>6. 区長あいさつ</p> <p>6月17日の第1回雑司が谷スピーチから今回で5回目になり、いろいろなお話をうかがったが、今回の伊藤先生の話聞いていて、原稿も持たずに人名や年代がすらすら出てくるのには驚きを感じた。</p> <p>スピーチを通じて、豊島区、雑司が谷には文化遺産が数々あり、素晴らしいものが</p>

きら星のごとくあることを改めて認識した。

雑司が谷でまちづくりの大きなきっかけとなったのは、6月14日の副都心線の駅が開業したことであるが、雑司が谷は副都心線の注目のスポットになったと思っており、雑司が谷を訪れる人に対して、その期待に応える必要がある。

これから池袋副都心は変わっていくことになるが、新しいまちづくりは自然に成長するのに対し、古い街並みや歴史を残すことは、新しいまちを作る以上に金をかけていかないと残っていかないと思っており、雑司が谷で古き良きものを残していくことが豊島区の最大の仕事であると感じている。

雑司が谷ではまちに対する関心が深く、雑司が谷を愛する心が生まれてきたのではないかと確信しており、これからのまちづくりに向けて、区の職員もサポートしていかなければならないと考えており、努力をしていきたい。

3月までに事務局の方で、いただいたご意見を元に、具体化の作業を進める予定である。

10月16～18日のお会式に参加したが、日本女子大学の永村眞先生が雑司が谷のお会式について勉強をされており、お会式を次の世代に継承していくため、お祭りという意識以上に勉強し、豊島区の財産として残していくべきと言う意見交換をした。

また、今回の区の広報ではお会式の記事を掲載しており、並木ハウスに続く雑司が谷第2弾であるが、地域の文化資源にメッセージを発信していくことは大切であると考えており、地域の文化を大切にしながら、文化によってにぎわいのあるまちをつくり、文化を後世に受け継いでいきたいと考えている。

平成22年度には今年の積み重ねを実現化していくように努力していくので、みなさんご協力をお願いしたい。

○閉 会